

テーマ4

イノベーションエコシステム

異分野のエコシステム事例から成功要因を抽出し、林業の現状を踏まえてあるべき姿を検討し、林業業界におけるイノベーションエコシステムの支援体制を検討します

テーマ4「イノベーションエコシステム」 実施概要

テーマのビジョン
(森ハブにおける将来像)

- 森ハブは、支援プラットフォームとして、技術探索だけでなく、イノベーション推進に向けた支援機能により技術の現場実装を実現し林業界の課題解決を促進する

本年度のゴール

- 異分野における好事例からイノベーションエコシステムのあるべき姿を検討し、林業業界におけるイノベーションエコシステムの在り方を検討し、ネットワークを支援する為のスキームに関する戦略案を検討する

本年度の実施事項・成果物

< 事例調査 >

異分野におけるイノベーションエコシステム好事例	■ 世界的にイノベーションエコシステムの成功事例として認知されている事例からエコシステムのあるべき姿を検討
海外における林業イノベーションエコシステム取組事例	■ 海外における林業業界におけるイノベーションエコシステムの取組事例から林業業界における業界の現状を把握
国内における林業イノベーションエコシステム取組事例	■ 海外における林業業界におけるイノベーションエコシステムの取組事例から日本におけるエコシステムの課題を抽出

< イノベーションエコシステムの構築戦略 >

林業業界におけるイノベーションエコシステムのめざす姿を策定し、ネットワークを支援する為のスキームに関する戦略案を具体的に検討する



専門委員会での協議事項（案）

第1回

- イノベーションエコシステムの基本的な考え方の整理
- 基礎調査対象の整理
- 林業におけるイノベーションエコシステムの仮説の検討

第2回

- 異分野におけるイノベーションエコシステム事例の検討
- 林業業界におけるイノベーションエコシステムの課題

第3回

- 林業業界におけるイノベーションエコシステムのあるべき姿の検討
- イノベーションエコシステムのスキームに関する検討

第4回

- 林業業界におけるイノベーションエコシステムの構築に関する戦略案に関する検討

第3回委員会で受けた御意見とその対応方針

テーマ4 インノベーションエコシステム

項目	御意見概要	対応方針	第4回資料 対応箇所
林業界における 森ハブの役割・意義	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他テーマと連携・情報共有をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他テーマの推進を含めた森ハブの果たすべき役割について、「林業界における森ハブの役割・意義」章にて記載 	P6～
森ハブのあるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「ビジネス実装支援の展開」が特に支援が必要になるフェーズであり、重点的に取り組む体制ができるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援体制について、「森ハブのあるべき姿」章にて記載 	P14～
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優良な個別事例を取り上げ、それを横展開していくことも支援するという体制があればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の横展開による全国への普及、拡大について、「森ハブのあるべき姿」章にて記載 	P14～
取組課題（案）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 明確な取組テーマを決めた方がいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取り組みテーマ案について、Appendixにて記載 	P27～
先進的な取り組みを モデルとした 森ハブの支援イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデルをいくつか想定して、あり方を検討した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル事例における支援イメージについて、Appendixにて記載 	P29～

第4回検討会では今後展開していくイノベーションエコシステムの戦略案を検討するとともに、必要な支援体制のありかたについて議論できればと存じます

異分野におけるイノベーションエコシステムの調査対象

Key Question	① 異分野におけるイノベーションエコシステム成功要因分析	② 林業業界におけるイノベーションエコシステム課題分析	③ 林業業界におけるイノベーションエコシステムあるべき姿の検討	④ 林業業界におけるイノベーションエコシステム支援体制の検討
検討論点	<ul style="list-style-type: none"> 世界的にイノベーションエコシステムの成功事例として認知されている事例調査を通じてイノベーションエコシステムの成功要因を抽出する 	<ul style="list-style-type: none"> 林業業界におけるイノベーションエコシステムの取組事例から林業業界における国内・海外のイノベーションエコシステムの現状を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 異分野での成功要因や林業における課題整理を通じて、林業業界におけるイノベーションエコシステムあるべき姿を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 林業業界におけるイノベーションエコシステムを持続的に運営する為の体制に関する戦略案を検討する
	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションエコシステムの構成要素に関して既存文献を整理 事例別にイノベーションエコシステム形成の出現・成熟経緯や中心プレイヤーの整理 	<ul style="list-style-type: none"> 国内・海外先行事例におけるネットワーク形成、プロジェクト組成、ビジネス支援、情報発信、支援プラットフォームの在り方を整理 	<ul style="list-style-type: none"> 異分野・林業双方の事例を通じて、目指すべきイノベーションエコシステムの好循環のあるべき姿を策定 	<ul style="list-style-type: none"> 林業業界におけるイノベーションエコシステムのめざす姿から、ネットワークを支援する為のスキームに関する戦略案を具体的に検討 

林業界における森ハブの役割・意義

【本章の要旨】

これまでの委員会で検討を行ってきた、イノベーションエコシステムを起こすための枠組みと、森ハブが有すべき機能を再定義し、林業界における森ハブの役割や意義を整理します。

【本章の構成】

現状・課題の整理

- イノベーションエコシステムの形成における成熟過程の整理
- 林業界のエコシステム形成にかかる不足している機能・リソース

森ハブの役割・意義

- 森ハブの支援内容
- 森ハブの取り組みイメージ
- 【森ハブの機能①】取組を「深める」機能
- 【森ハブの機能②】取組を「広げる」機能
- 森ハブの目指すステップ

異分野におけるイノベーションエコシステム形成には下記4つのステップとそれを支援する「支援プラットフォーム」の存在があげられ、各ステップと支援機能が有機的に連携することで自律的な循環が生まれています

第2回委員会にて検討

イノベーションエコシステムの形成における成熟過程の整理

①ネットワーク形成

- 林業者／異分野の事業者、大企業／中小企業／ベンチャー、事業者／研究機関／金融機関／行政など、多様なプレイヤーが集うコミュニティが形成されている
- コミュニティのテーマが明確に設定されており、共通の問題意識を持つメンバーが集っている

②プロジェクト組成

- 中小企業・大企業・大学などの多様な意欲あるプレイヤー同士がマッチング出来る環境が整備されている
- 共通の問題意識を持つプレイヤー同士が議論を行い、そこからプロジェクトが発生されている

③ビジネス支援

- 組成したプロジェクトの段階や領域に応じて、実証、ビジネスモデル構築、事業計画や知財戦略の策定、資金調達等の事業展開に向けた一連の流れをサポートできる仕組みが整備されている

④情報発信

- 国内外の関心を呼ぶテーマの打ち出しやテーマの設定をし、分かりやすく魅力的なPRが行われている
- 成功事例の輩出と効果的な対外発信によるブランド化を通じて、更なるプレイヤーや投資を呼び込む仕組みが構築されている

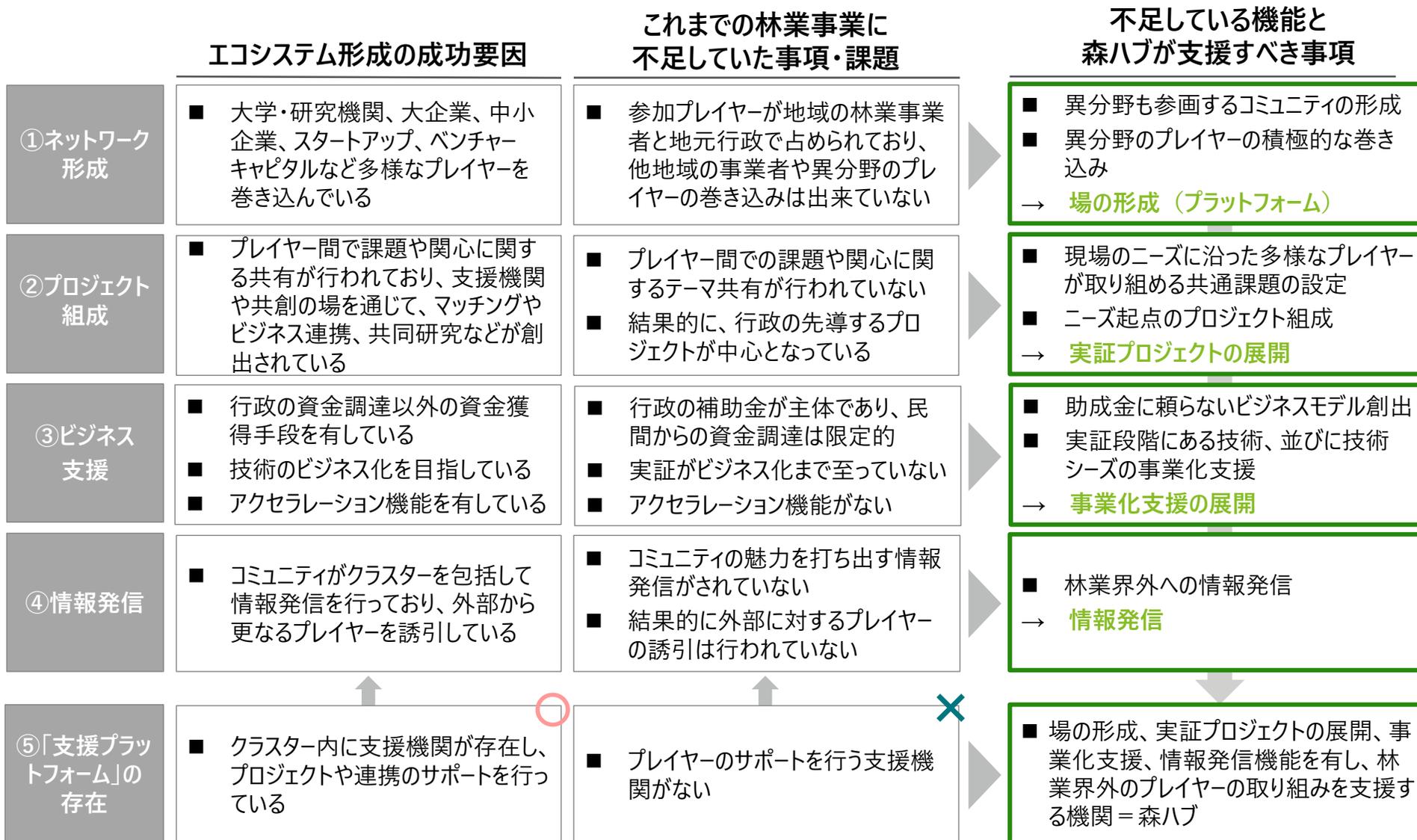
⑤場の構築から情報発信を担う「支援プラットフォーム」の存在
＝ イノベーションを引き起こす触媒となりうる仕組み

林業界にイノベーションの触媒となるプラットフォーム(＝森ハブ)を構築し、ステップに応じた支援を行うことが林業イノベーションエコシステム形成につながる

林業界におけるエコシステム形成を検討したとき、森ハブは不足している機能・リソースを補完する支援プラットフォームとしての役割を担います

林業界のエコシステム形成にかかる不足している機能・リソース

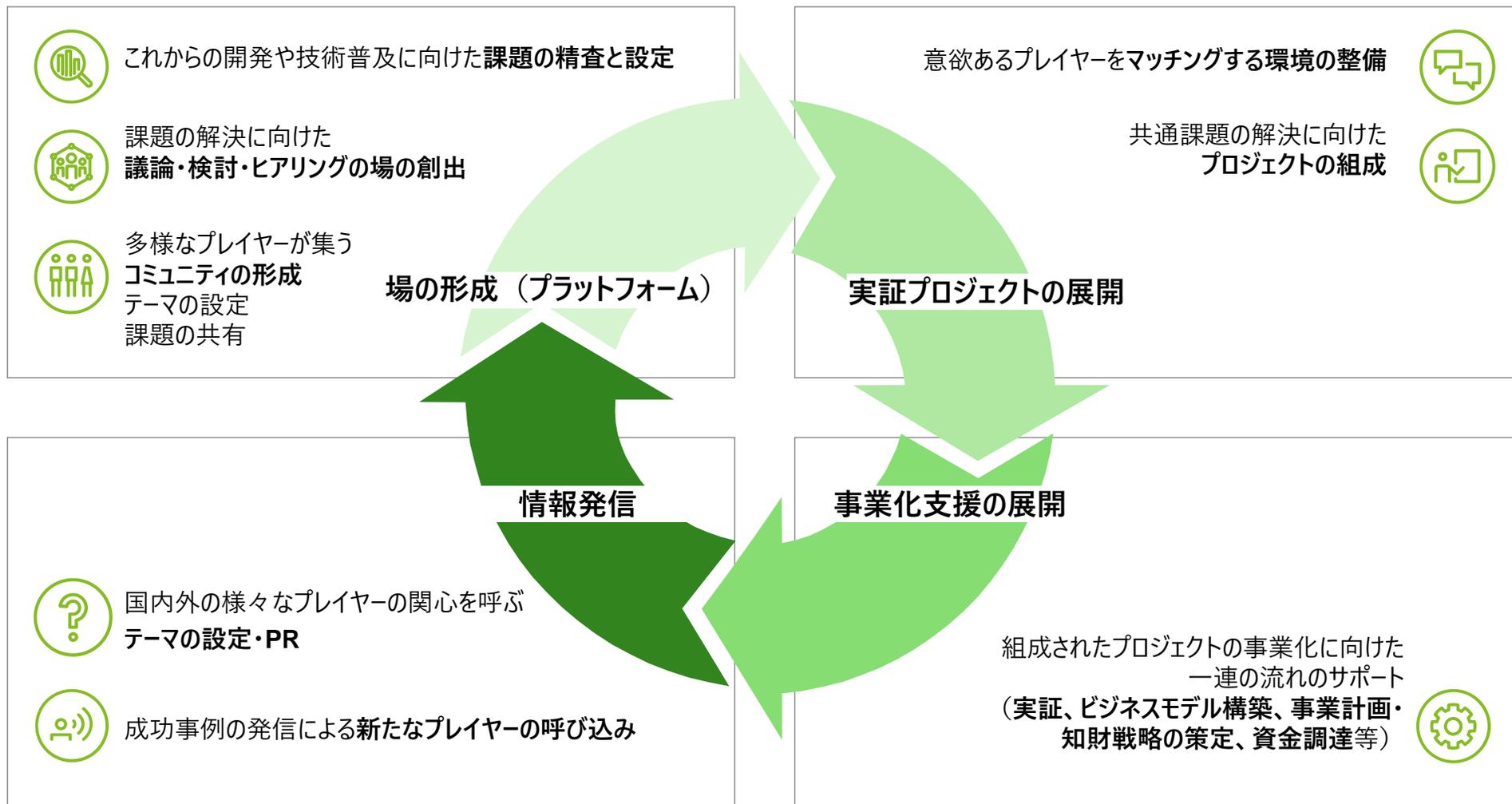
第2回委員会にて検討



森ハブの支援内容としては、エコシステム形成の3つのフェーズを補完する事業化支援と、各ステップの取り組みを加速させる情報発信機能があげられます

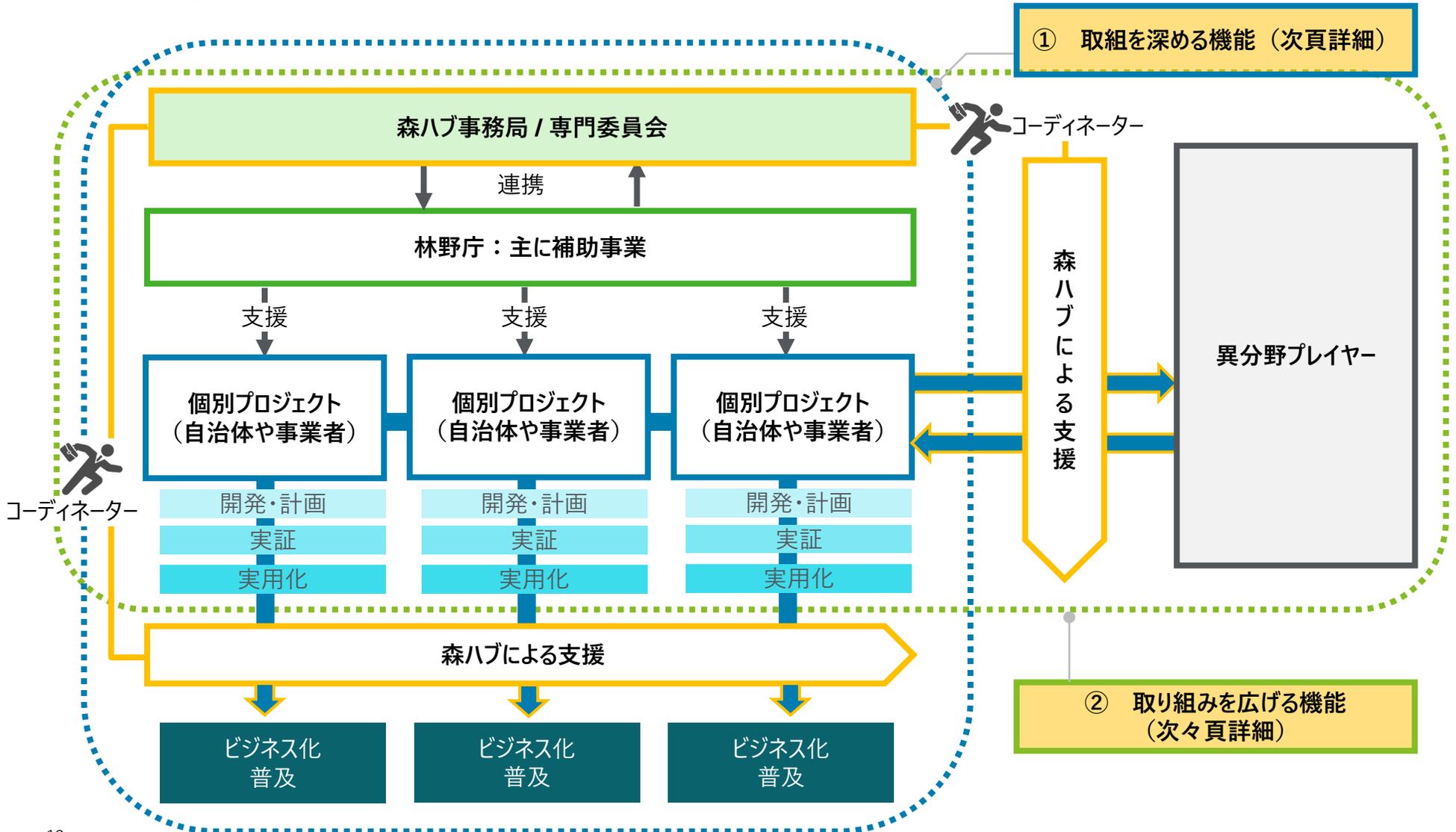
第3回委員会にて検討

森ハブの支援内容



これまでの議論をふまえ、森ハブのありかたを検討すると、既存事業を取りまとめ、業務を深化させると同時に、新たなプレイヤーを呼び込み、取り組みを広範化させる機能が重要です

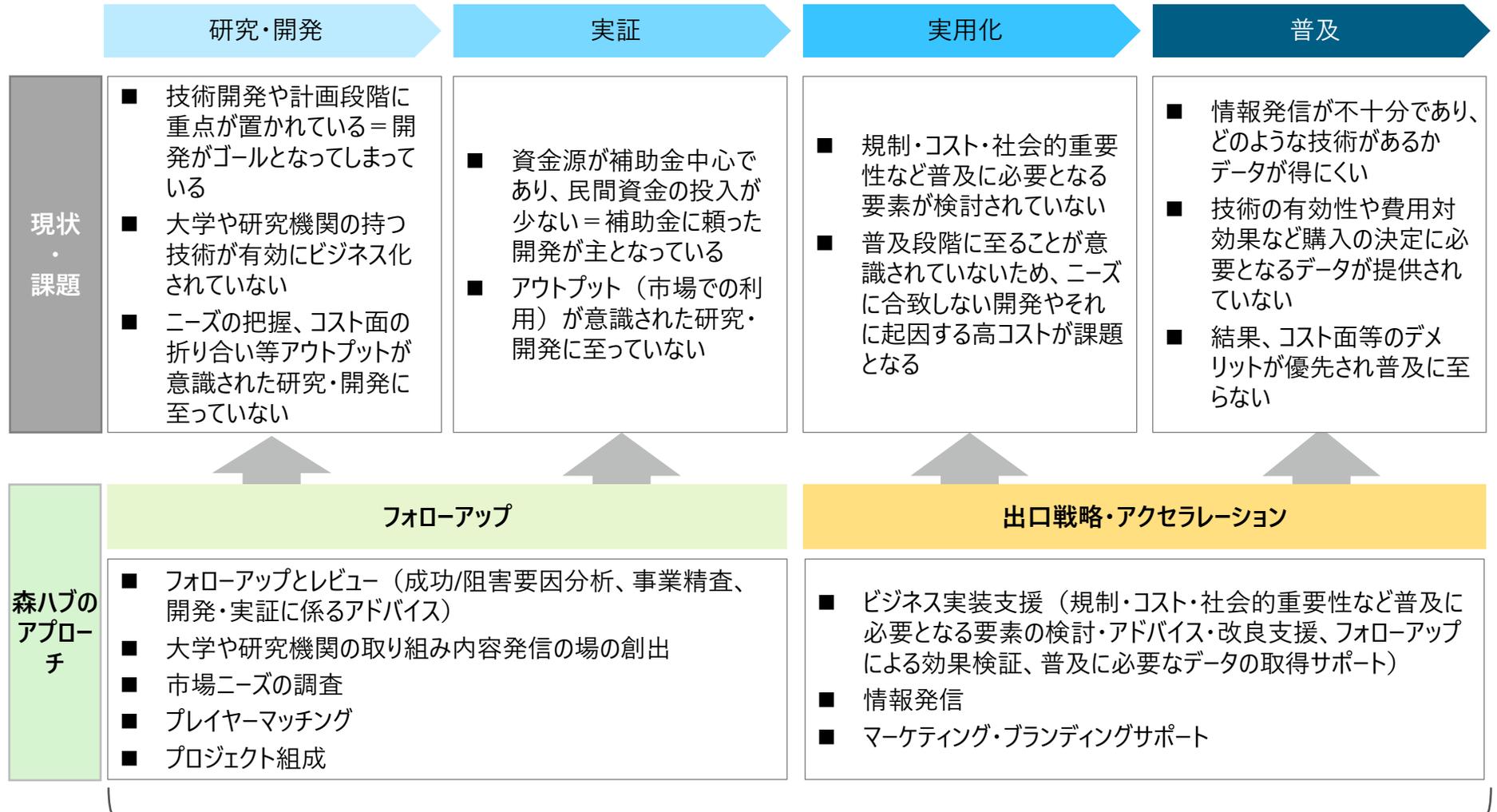
森ハブの取り組みイメージ



既存の補助事業や取組をまとめ、フォローアップ、アクセラレーション等、普及に向けた支援を通じて事業の加速化を支援する機能を想定しています

【森ハブの機能①】取組を「深める」機能

第3回委員会 テーマ1 資料にて
検討したものを再整理



出口を見据えた、一貫性を持った支援の実施

林業界以外のプレイヤーとのネットワークや投資の呼び込みを支援し、エコシステム形成をサポートする機能の設置も必要不可欠になります

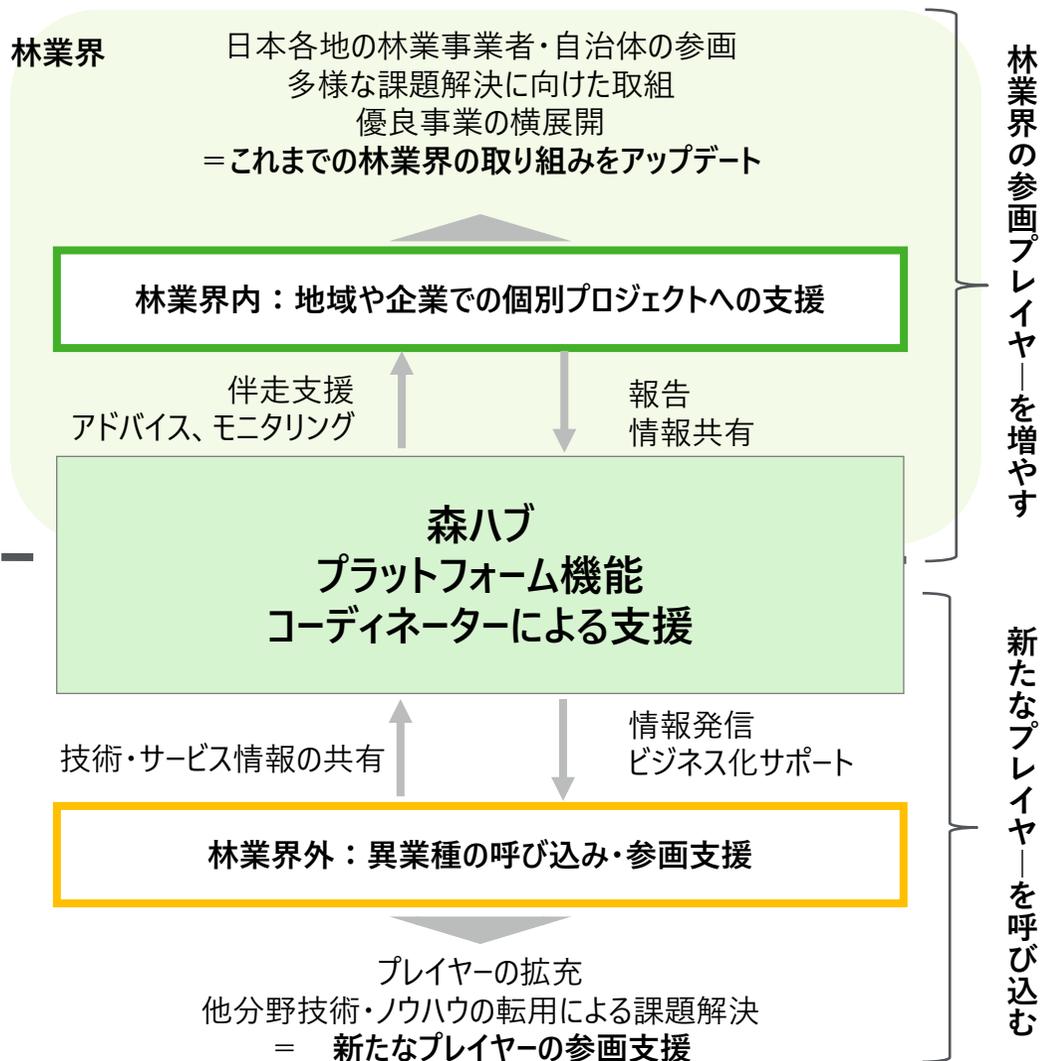
【森ハブの機能②】 取組を「広げる」機能

林業界内へのアプローチ

- 大学や研究機関の取組の発信の場の創出
- 市場ニーズの調査
- プレイヤーマッチング
- プロジェクト組成

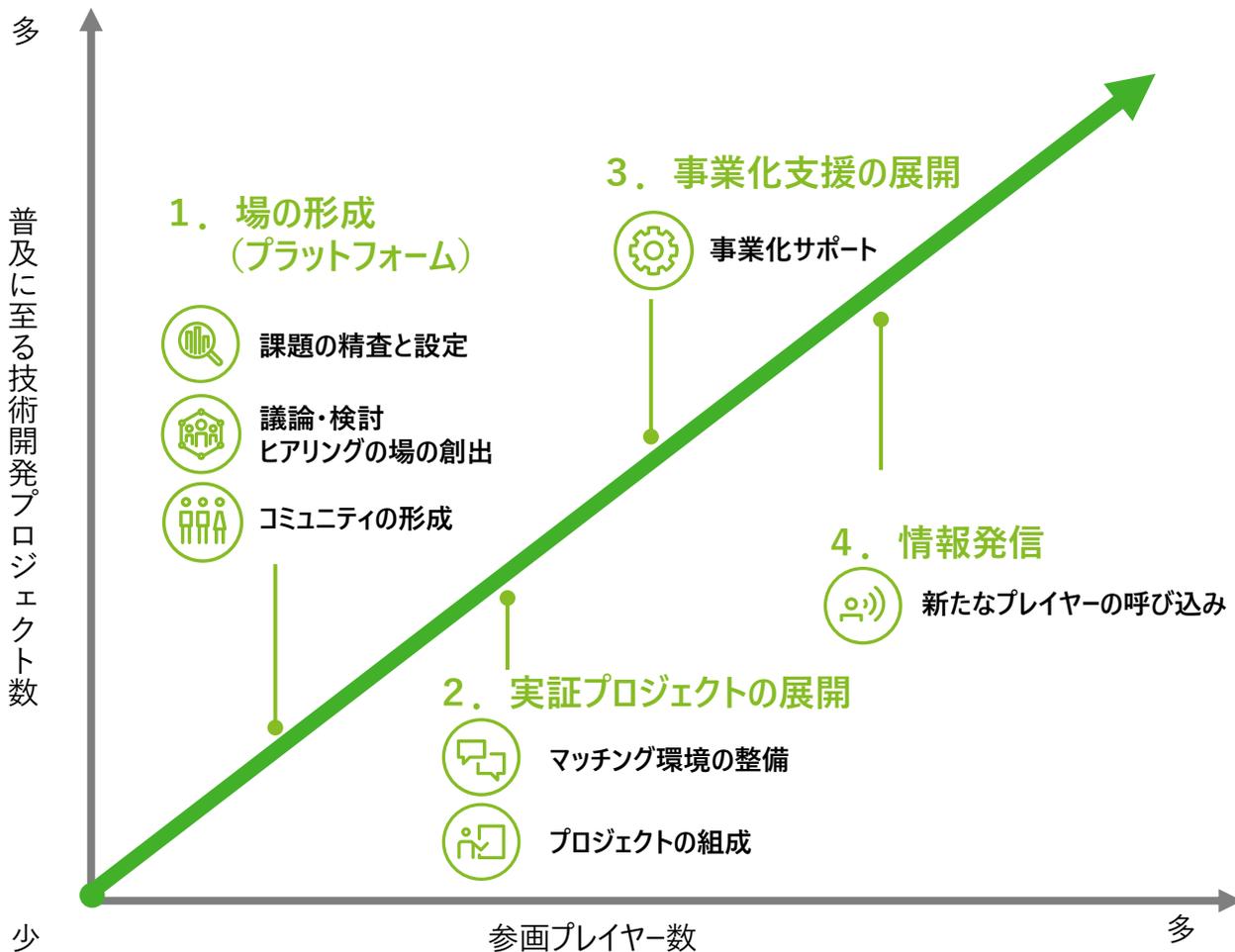
林業界外へのアプローチ

- プレイヤーマッチング
- プロジェクト組成
- 情報発信
- マーケティング・ブランディング



① 取組を深める機能による普及に至るプロジェクト数を増加させること、② 取組を広げる機能による参画プレイヤー数を増加させることが森ハブの目的です

森ハブの目指すステップ



既存事業との差別化要因



異業種の参画

= 取り組みを広げる



既存事業の精査・加速化

= 取り組みを深める



既存事業のとりまとめ・共有

= 上記プレイヤーや事業が集まるプラットフォームを有している

森ハブのあるべき姿

【本章の要旨】

前章で整理した森ハブの役割や機能を、開発～普及のフェーズにあわせた支援内容に落とし込み、森ハブのあるべき姿や現場を支援する人材の業務内容、人物像を検討し、最終的な森ハブのあるべき姿を考察します。

【本章の構成】

支援内容・手法について

- 森ハブの2段階の支援
- 【求められる支援】技術開発～実証における支援（0 ⇒ 1のフェーズ）
- 【求められる支援】実用化～普及における支援（1 ⇒ 10のフェーズ）

支援人材（コーディネーター）について

- コーディネーターの対応事項
- コーディネーターの人材要件
- 想定する人材イメージ
- 支援体制

森ハブの組織のかたちについて

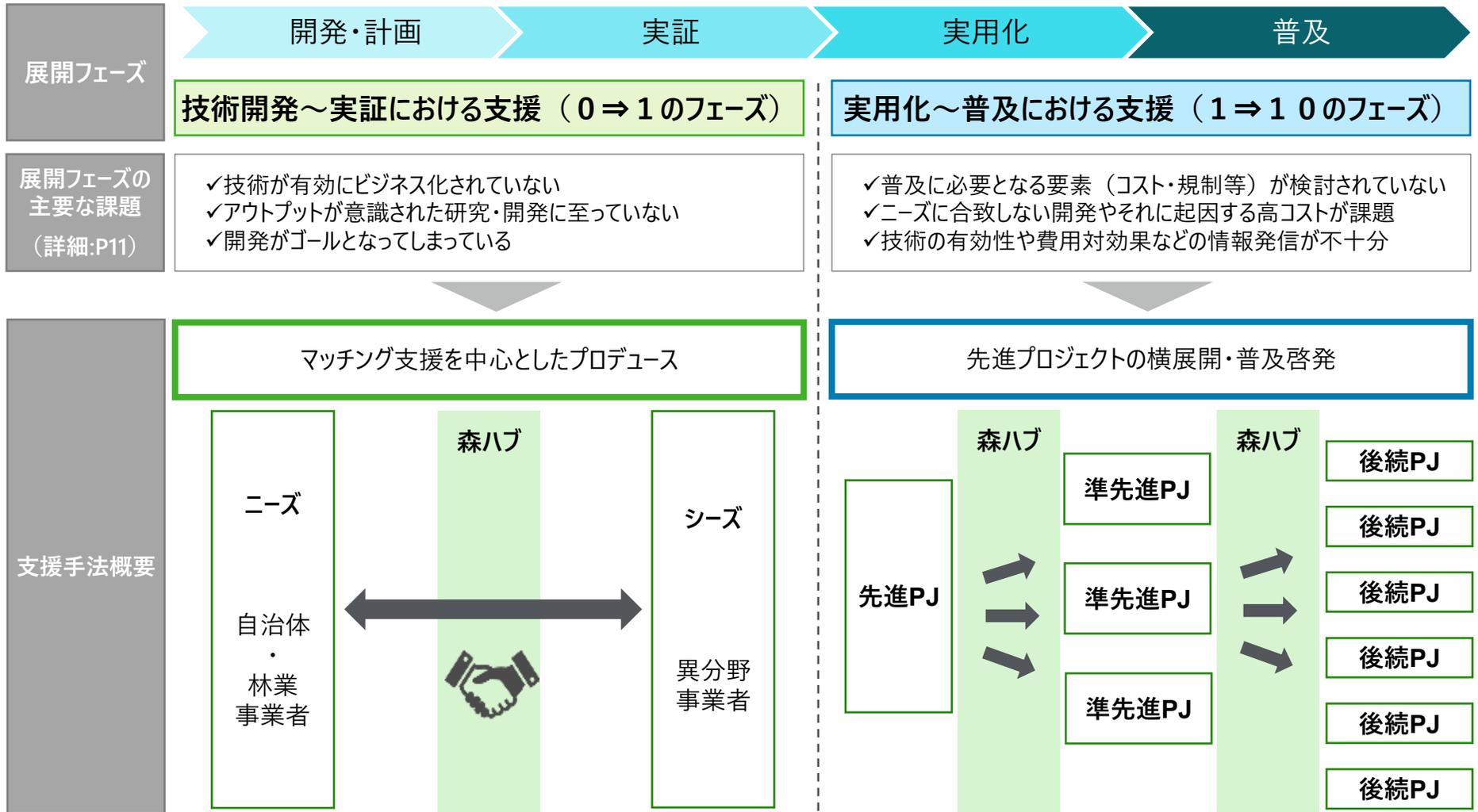
- 森ハブの組織のかたち

森ハブによる支援方法は、①技術開発～実証期、②実用化～普及期の2段階に分けられ、フェーズごとに適した支援を行います

① 0⇒1

② 1⇒10

森ハブの2段階の支援



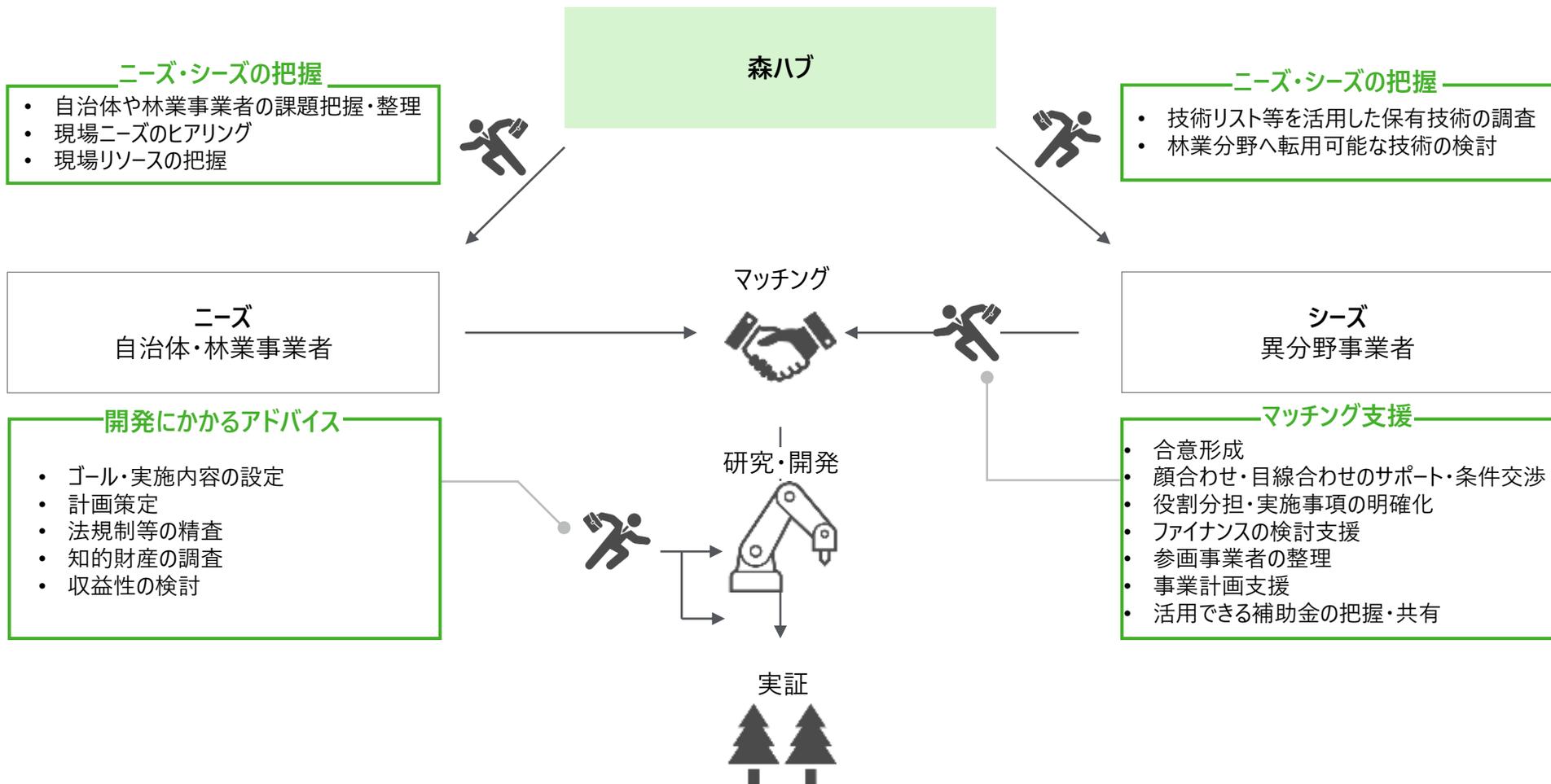
①技術開発～実証期においては、コーディネーターが中心となり、ニーズ側・シーズ側の双方の希望を満たすマッチングと付随するビジネス展開の伴走支援を行います

① 0⇒1

② 1⇒10

【求められる支援】技術開発～実証における支援（0⇒1のフェーズ）

…コーディネーター支援箇所



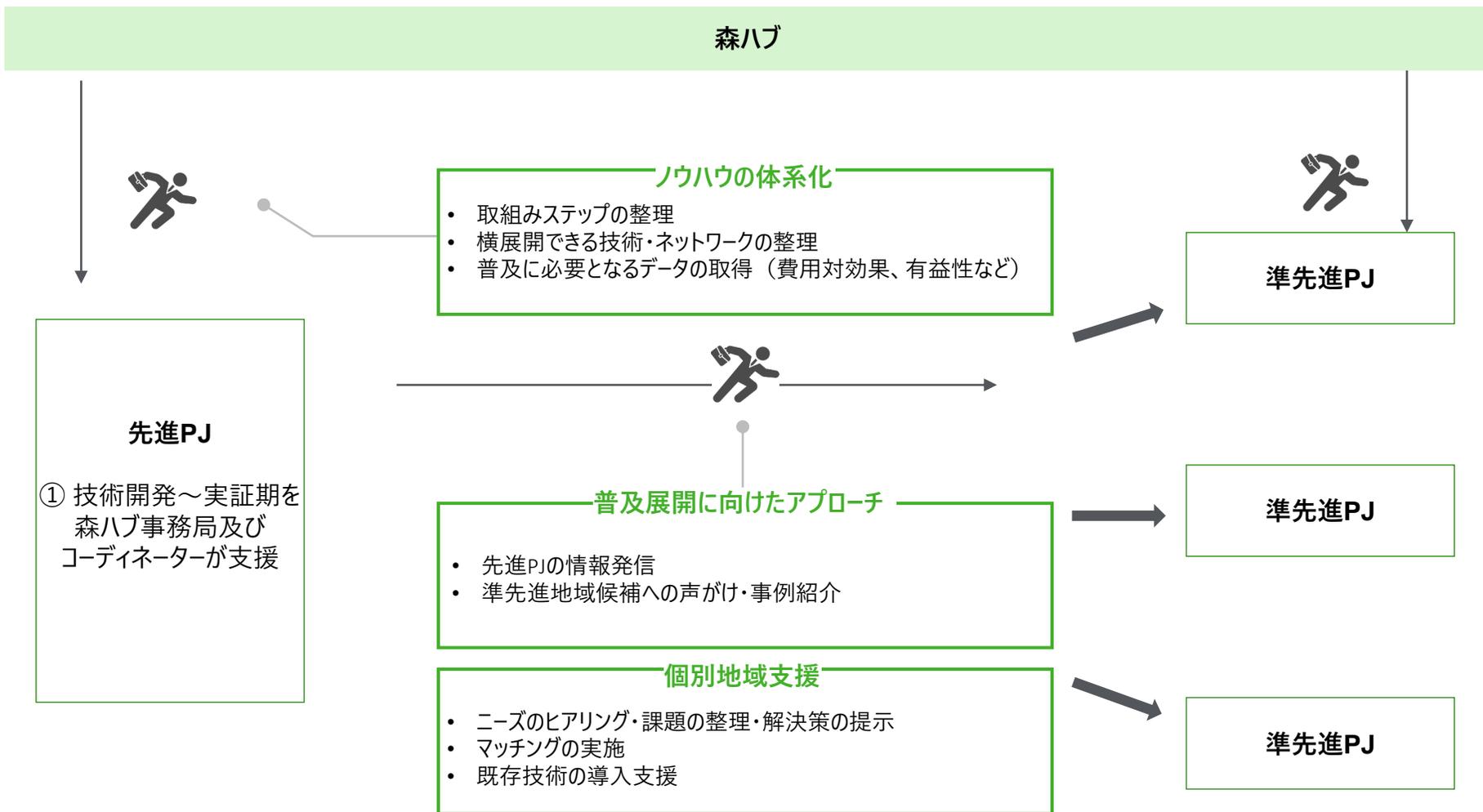
② 実用化～普及期においては、先進PJの事例を評価・体系化し、他地域への展開ができるよう、地域への導入支援を行います

① 0⇒1

② 1⇒10

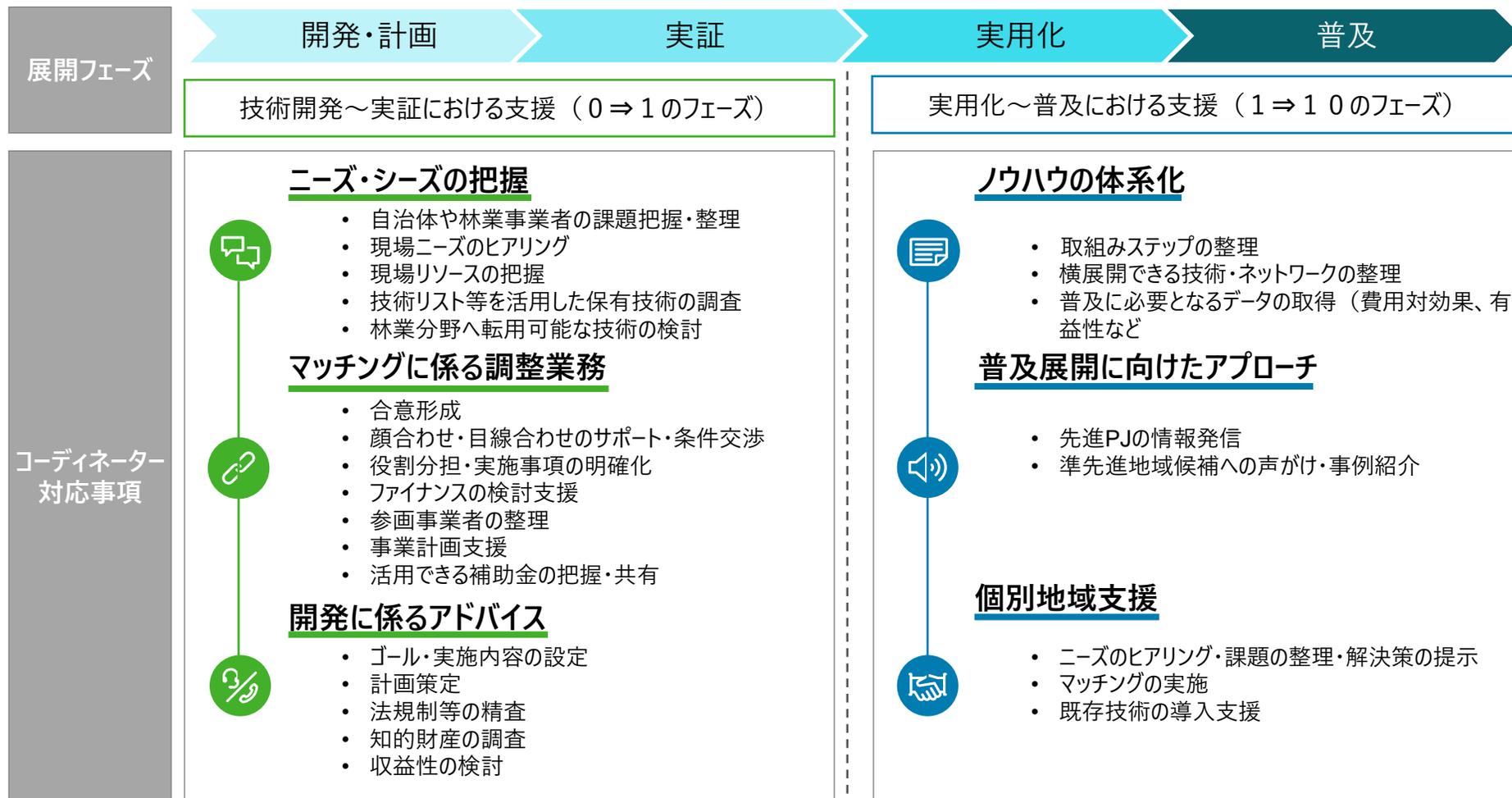
【求められる支援】実用化～普及における支援（1⇒10のフェーズ）

…コーディネーター支援箇所



森ハブは取り組みを総合的に支援するコーディネーターを有し、段階に応じた伴走型の支援を行います

コーディネーターの対応事項



①技術開発～実証期においては地域に入り込み、自発的に事業に取り組めるプロデューサー的人材、②実用化～普及期においては地域知見も有する普及啓発が可能な人材が求められます

コーディネーターの人材要件



パートナーシップの
締結

森ハブ事務局

技術開発～実証における支援（0⇒1のフェーズ）

- ✓ マインド・メンタル★ ----- 腰が低く謙虚に人の話を聞くことができ、粘り強く泥臭く業務に取り組む素養を有しているか
- ✓ 人間性 ★ ----- 地域や林業者、事業者を受け入れられ、信頼される人間的素養を有しているか
- ✓ リーダーシップ・巻き込み力★ ----- 人材育成、ビジネス化の過程で関係者を巻き込む力、リーダーシップがあるか
- ✓ フットワークの軽さ・現場力★ ----- アドバイスだけでなく、実際に現場に入り込み、当事者として動ける能力、時間、体力があるか
- ✓ コミュニケーション ----- プレイヤーと密な連携をとり、ステップに応じた必要なアドバイスを行えるか
- ✓ 責任感・伴走力 ----- 自身の行ったマッチングに責任を持ち、事業展開を推進できるか
- ✓ 応用力・見極め力 ----- 他分野技術の林業界転用時にどのようなステップを踏めば適応できるかの筋道が描けるか
- ✓ 知識・実績・ノウハウ ----- 過去実績・コーディネート経験等

技術開発～実証期においては、**適切な知識・スキル・ノウハウを持ったプロデューサー(コーディネーター)が必要**
★・・・特に必要とされるスキル

実用化～普及における支援（1⇒10のフェーズ）

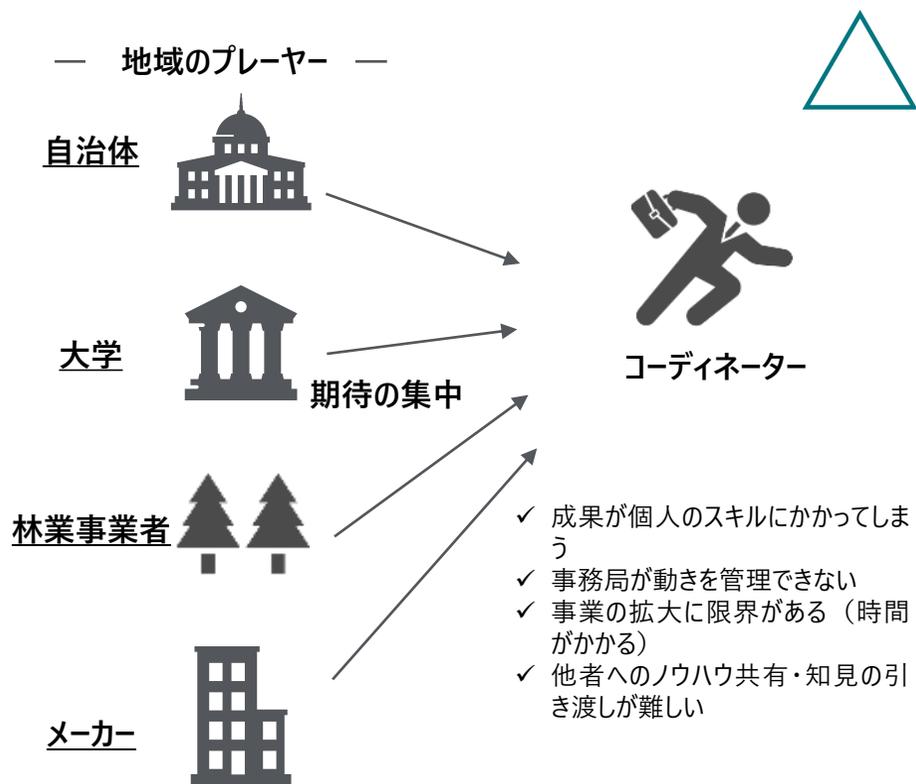
- ✓ 先進事例の理解・把握 ----- 先進事例を評価・整理し、他地域への展開する際の要点を理解しているか
- ✓ コミュニケーション ★ ----- 地域のプレイヤーと連携し、課題や不安を解消しつつ、導入推進ができるか
- ✓ 地域林業に対する知見 ----- 地域林業・林地の特性を理解し、適切な導入推進ができるか

実用化～普及期においては、**地域の現状を理解し、的確な導入支援をしていく人材が必要**
★・・・特に必要とされるスキル

取組支援はコーディネーターを中心に事務局を含めたチームで協同することで、チーム内への知見の蓄積、問題の早期解決など効果的な運営につながる体制を整えます

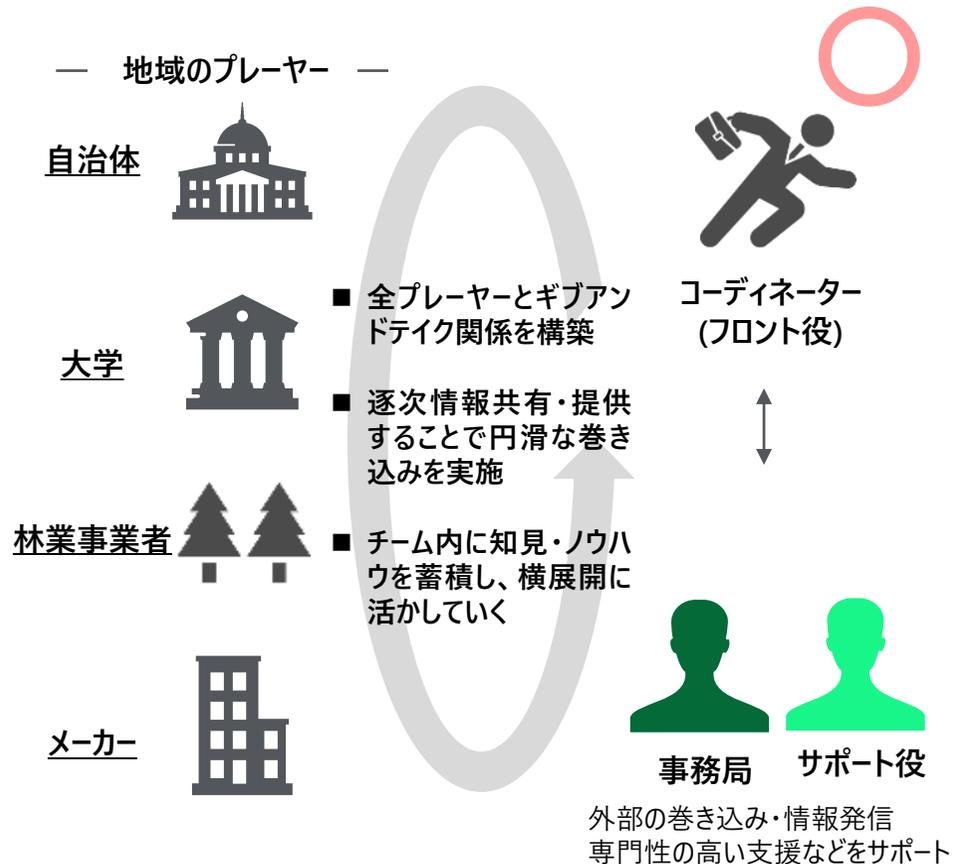
うまくいかないパターン

- コーディネーターが個人で地域で活動する場合、コーディネーターの個のスキルによった支援内容になってしまうほか、外部地域・事業者との連携が限られ、外部・異分野を巻き込んだエコシステムの形成が難しくなります。



うまくいくパターン

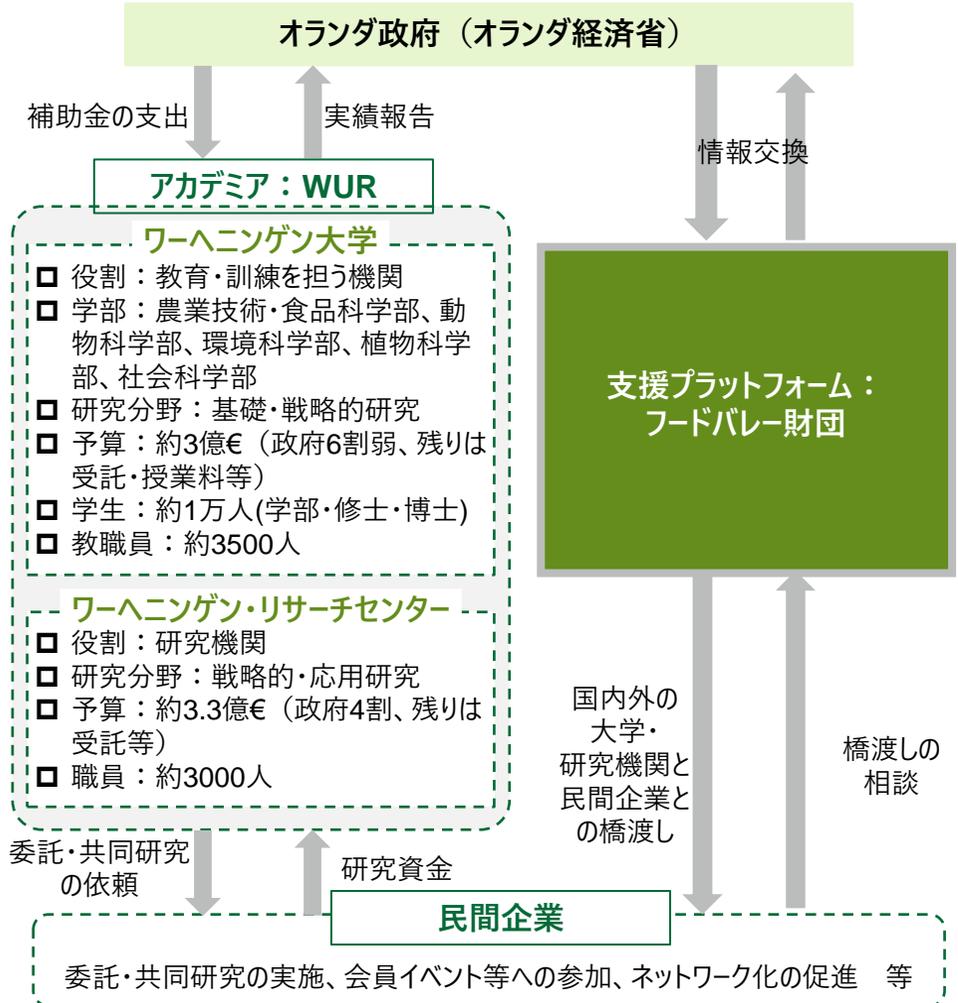
- コーディネーターと事務局が連携し、チームで業務にあたることで、知財戦略や規制への対策等の専門性の高い支援、情報発信等、森ハブ機能との連携、チーム内へのノウハウ・知見の蓄積等、より有効な業務推進が可能です。



最終的な森ハブの組織のかたちとしては、異分野エコシステムにおける、場の構築から情報発信を担う「支援プラットフォーム」機能を果たす機関となることを目指します

第2回委員会資料を再整理

参考例：オランダ・ワーヘニンゲンエコシステムにおける支援機関



フードバレー財団

- 「フードバレー」とは、産官学連携の利便性を求めてWUR（ワーヘニンゲン大学リサーチセンター（Wageningen University & Research））周辺に集積してきた民間企業、ヘルダーラント州政府、ワーヘニンゲン市を含む地域の自治体が集まり、形成された産業クラスター
- 2004年に民間企業支援を担うフードバレー財団を設立し、国家戦略としての農業産業の振興をリードするようになった

《概要》

- 役割：民間企業支援を担う機関（関係者間のマッチング促進、スタートアップ支援 等）
- 予算拠出元：EU（政府はEUに資金拠出）および地方政府からの拠出、会員企業からの会費収入
- 会員142社、職員18名
- プロデューサー人材：プロジェクト担当8名、コミュニケーション担当2名

《主要な活動》

- 企業と研究機関、企業同士を結ぶネットワーク機能の発揮
- 革新的プロジェクトの支援および技術移転、スピノフや起業の促進・発展の支援
- オランダからEU全般において農作物・食品分野の「知」を集積する働きかけ
- 他の農作物・食品クラスターとの国際的な提携関係の構築、ならびに連携を広げることによる新たな情報や知識の提供および参画メンバーの会員への還元
- 国際会議や展示会におけるフードバレーやその成果を紹介する普及活動

*民間企業経験者など、基本的に組織外から確保